

「新年賀詞交換会」を開催

2019年1月7日（月）、日本船主協会および日本造船工業会は、初めて新年賀詞交換会（於：海運ビル）を共催し、当日は国会議員の先生方や国土交通省・防衛省等の関係省庁、関係業界や団体、両会会員会社等から600人を超える方々に参加いただきました。



会場の模様

会の冒頭、武藤光一日本船主協会会長が挨拶に立ち、米中間の貿易摩擦や目前に迫る環境規制の厳格化など、海運・造船の両業界にとって先行き不透明な状況にある中、年号の変わる新しい年に引き続き様々な重要課題に取り組んでいく決意を示しました。特に、地球環境保全への取り組みについては両業界が重要な責務として努力する一方、その費用負担については広く国民の皆さまにご理解いただき、関係方面からのご協力をお願いしたいと述べました。また、造船業界における公正な競争条件を歪曲する外国政府による助成政策に懸念を示し、両業界における事業環境のイコルフットィングの重要性を強調するとともに、これに関連して2019年度税制改正で船舶の特別償却制度の延長・拡充が認められたことに謝意を表しました。



武藤船協会長



石井国土交通大臣

続いて、石井啓一国土交通大臣よりご挨拶があり、初めてとなる共催について本会がわが国海事クラスターの関係者が更なる連携を深める契機となるよう期待を寄せられるとともに、国土交通省としても、海運・造船の両業界が担う役割を十分に認識し、直面する課題に全力で取り組んでいきたいとのお言葉をいただきました。

最後に、加藤泰彦日本造船工業会会長からも、船舶の特別償却制度の延長・拡充が認められたことについて感謝の意が示されるとともに、先進船舶の積極的な開発・建造を通じ、日本海運の競争力強化に貢献したいとの発言がありました。また、造船市況について2019年が業績回復の一年となるよう期待を表し、ひいては日本海事産業のますますの発展の年となるよう願いつつ乾杯の音頭を取った後、歓談に移り、会場では参加の皆様が親睦を深め、新年を盛大に祝う賀詞交換会は盛会のうちに終了いたしました。



加藤造工会長